

1

21世紀は環境の時代。生物機能を活かした農・園芸にチャレンジ。

環境園芸学部 環境園芸学科 園芸生産環境専攻 教授 山口 健一

講座要旨

環境保全園芸学研究室

Lab for Sustainable Horticulture

21世紀は‘環境’の時代と言われています。農業や園芸においても自然と調和した循環型の栽培・生産システムが求められています。私たちは、「生物機能を利用した栽培環境の保全」をテーマに、合成農薬や化学肥料に代わる微生物、特に有用な糸状菌の探索とそのメカニズムの解明について、実験科学的な研究活動を行っています。

【授業】以下の項目について、分かりやすく講義します。

農業・園芸と地球環境のかかわり、農業の多面的機能

現代農業の環境上の問題点〔合成農薬、化学肥料、家畜排泄物、資材リサイクル等〕

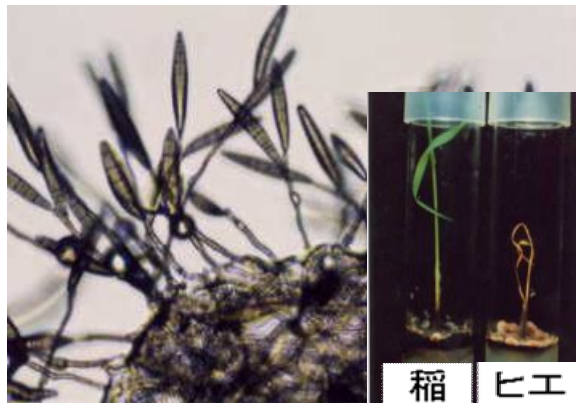
環境にやさしい植物保護・施肥技術、IPM(病虫害・雑草の総合防除)とICM(総合的作物管理)

外来侵入雑草の生理・生態とその制御、Biological Control(生物的防除法)

【研究】温暖な南九州は有用微生物の宝庫。農業や園芸生産に役立つ糸状菌を一緒に探しませんか？

雑草のヒエを選択的に除草する *Exserohilum*

肥料のリンを節減する VA mycorrhizal fungus



履歴

宮崎市在住、千葉県生まれ

千葉大学 園芸学部 園芸学科 卒業

同 大学院 園芸学研究科 修了、博士(農学)

専門分野:植物保護・防疫学、バイオコントロール

1993年 米国コーネル大学 植物科学分野 研究員

1996年 三井化学ライフサイエンス研究所 主任研究員

経済産業省「CO<sub>2</sub>固定植物」研究プロジェクト 技術委員(1998~2001年)

NEDO「工業原料植物」研究プロジェクト 研究開発委員(1999~2002年)

2003年 南九州大学 園芸学部(現 環境園芸学部)

2004年 同 大学院 園芸学・食品科学研究科 (兼任)、現在に至る

南九州大学  
担当科目

環境保全型農業論、環境保全園芸論、農薬科学、環境科学、総合防除論(分担)、卒業論文、  
環境保全専門実習、園芸生産環境実験(分担)、園芸生産環境専門実習(分担)、専攻演習・・・、  
人間と自然の共生(人間発達学部)、食農教育(健康栄養学部)、  
環境保全園芸学特論・・・(大学院)、環境保全園芸学特別演習・・・(大学院)